

CASBEE-建築(新築)2014年版、CASBEE埼玉県2015年版
 早稲田大学本庄高等学院 女子生徒寮(仮称)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、CASBEE埼玉県2015年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q1 建築物の環境品質						
Q1 室内環境			0.40		-			3.5
1 音環境		3.0	0.15	3.6	1.00			3.2
1.1 騒音	騒音レベル<40dBとする。	3.0	0.50	4.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.50	3.3	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能	寮空間の界壁はTLD-50の仕様とする。	3.0	-	4.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	-	1.0	-			
2 温熱環境		3.1	0.35	3.3	1.00			3.2
2.1 室温制御		3.3	0.50	3.7	0.50			
1 室温		3.0	0.63	3.0	0.63			
2 外皮性能	共用部:窓SC=0.5、U=3.0、壁U=0.6→レベル4。住戸は外皮基準クリア	4.0	0.38	5.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.3	0.25	2.9	1.00			3.2
3.1 屋光利用		4.2	0.30	2.5	0.30			
1 屋光率	食堂の屋光率:2.8%	5.0	0.60	2.0	0.50			
2 方位別開口		-	-	3.0	0.30			
3 屋光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策	以下の対策の他、外周共用部はフロストフィルムにより光を拡散。寮室はバルコニー、カーテンの設置によるグレア対策を実施。	3.0	0.30	4.0	0.30			
1 屋光制御	寮室は全般照明の他、デスクライト対応によりタスクアンビエント。	3.0	0.15	5.0	0.15			
3.3 照度		3.0	0.25	1.0	0.25			
3.4 照明制御		-	-	-	-			
4 空気質環境		4.6	0.25	4.7	1.00			4.6
4.1 発生源対策		5.0	0.60	5.0	0.63			
1 化学汚染物質	使用材料は全てF☆☆☆☆とする。	5.0	1.00	5.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		4.0	0.40	4.3	0.38			
1 換気量	建築基準法および建築物衛生法を満たす換気量の1.4倍。	3.0	0.50	5.0	0.33			
2 自然換気性能	寮室の開閉窓は居室面積の1/5.3(1/6以上)	3.0	-	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	空気の給排口は周辺環境を考慮した上で3m以上離して計画。	5.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.6
1 機能性		4.0	0.40	4.6	1.00			4.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	通信ケーブルにカテゴリ6を採用。	3.0	-	5.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	4.0	0.40			
1 広さ感・景観	寮室の天井高:2.5m	3.0	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画	インテリアバースの作成及び用途に適した内装材の選定	5.0	1.00	5.0	0.50			
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	耐候性の高い外装材の採用	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	清掃用資材置場の確保、廃棄物スペースの確保	4.0	0.50	-	-			
衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30	-	-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房系統、多湿系統はガルバリウム鋼板ダクトを採用。	5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水にVB、排水にDVLP、給湯にSUS管を採用。	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.2	0.20				
1	空調・換気設備		3.0	0.20				
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20				
3	電気設備		3.0	0.20				
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAを採用。	4.0	0.20				
5	通信・情報設備	光ケーブル、有線電話、FAXを採用。	3.0	0.20				
3 対応性・更新性			3.6	0.30	2.7	1.00	3.2	
3.1 空間のゆとり					2.4	0.50		
1	階高のゆとり		3.0	-	2.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性			3.6	1.00				
1	空調配管の更新性		3.0	0.20				
2	給排水管の更新性		3.0	0.20				
3	電気配線の更新性	主要配線ルートは露出とし、配線の更新性を向上。	5.0	0.10				
4	通信配線の更新性	主要配線ルートは露出とし、配線の更新性を向上。	5.0	0.10				
5	設備機器の更新性		3.0	0.20				
6	バックアップスペースの確保	屋外キュービクル置場等、予備スペースを計画。	4.0	0.20				
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.4	
1	生物環境の保全と創出	自生種に配慮した緑量豊かな植栽計画。	3.0	0.30			3.0	
2	まちなみ・景観への配慮	周囲の自然や建物と調和させたデザイン計画。	4.0	0.40			4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30			3.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	歩道に面した庇空間、緑量豊かな中庭を計画。	3.0	0.50				
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1	
1	建物外皮の熱負荷抑制	断熱材、ペアガラスの採用。	5.0	0.20			5.0	
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10			3.0	
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 - 住宅(専有部) 0.88	4.4	0.50			4.4	
集合住宅以外の評価(3a,3b)								
集合住宅の評価(3c)		エアコンに容量可変コンプレッサーを採用。LEDの採用。	4.4	1.00				
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0	
集合住宅以外の評価								
4.1	モニタリング		3.0	-				
4.2	運用管理体制		3.0	-				
集合住宅の評価			3.0	1.00				
4.1	モニタリング		3.0	0.50				
4.2	運用管理体制		3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3	
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4	
1.1 節水		節水コマ、擬音装置、自閉式シャワー水栓を採用。	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70				
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60			3.5	
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10				
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20				
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20				
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	路盤材(再生クラッシュラン)、デッキ材(木材・プラスチック再生複合)	4.0	0.20				
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10				
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	スケルトンインフィルの明確化を実施。	5.0	0.20				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20			3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤や防腐剤に指定化学物質を含有しないものを指定。	3.0	0.30				
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70				
1	消火剤		-	-				
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50				
3	冷媒		3.0	0.50				
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮		自動計算による。	3.4	0.33			3.4	
2 地域環境への配慮			3.5	0.33			3.5	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善		隣棟間隔比を工夫する等、敷地外への熱的影響を低減。	4.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.3	0.25				
1	雨水排水負荷低減		-	-				
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33				
3	交通負荷抑制	1人1台の駐輪施設を計画。管理用・サービス用車両スペースを計画。	4.0	0.33				
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33				
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40				
1	騒音		3.0	0.33				
2	振動		3.0	0.33				
3	悪臭		3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40				
1	風害の抑制		3.0	0.70				
2	砂塵の抑制		3.0	-				
3	日照障害の抑制		3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			4.0	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明は実施しない。	4.0	0.70				
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	建物外周壁はフロストシート貼りとし、光の拡散性を高める計画。	4.0	0.30				